大谷摩崖仏（宇都宮市）

ここは大谷寺（おおやじ）/大谷寺本尊千手観音像は古くから大谷観音と称され、鎌倉時代に坂東19番の霊場となり、多くの人々から尊崇されてきたと云う/岩肌がそそり立っている/国指定 特別史跡・名勝となっている

video

そこで、右手を見たところ/五輪塔が並んでいる

同じく、左手を見たところ/こちらも岩肌がそそり立っている

更に左手を見ると、この奥が大谷公園となっている

さて、大谷寺境内に入ろう/説明板が立っている

えぐられた岩窟に覆われるように建つ大谷寺の本堂内には、岩肌に刻まれた本尊の千手観音像を始め、計10体の磨崖仏が彫られている

大谷寺の文化財

天開山大谷寺は、坂東33観音霊場の第19番札所であり、弘仁元年（810）に弘法大師によって開基されたと伝えられ、多くの人々から崇敬されている。

大谷寺境内の凝灰岩（大谷石）の洞穴壁面には、日本最古の磨崖仏（自然の内の岩壁に彫刻された仏像）といわれている大谷寺本尊の千手観音（大谷観音）、釈迦三尊、薬師三尊、阿弥陀三尊像が彫られている。

これらの仏像は、わが国石像彫刻中最優秀な技工を極めたものとして、国指定特別史跡・重要文化財の二重指定をうけている。

また、洞穴は、昭和40年（1965）の発掘調査により、縄文・弥生から歴史時代にまたがる遺跡であることが確認された。出土遺物は、宝物館に展示されている。

鐘楼には県指定の銅鐘、本堂正面には市指定の銅灯籠があり数多くの貴重な文化財を今日に伝えている。

Cultural Properties at Ōya Temple

Ōya Temple is the 19th of 33 sacred places in the Kantō district which form a traditional pilgrimage of homage to the goddess Kannon. The temple is said to have been founded by Saint Kōbō in 810, and is revered by many people.

Carved on the rock walls of a natural cave on the temple grounds are ten "rock-carved Buddha" images: Shaka Sanzon, Yakushi Sanzon, Amida Sanzon and, the oldest such carving in Japan and Ōya Temple's principal image, Senju Kannon.

Among stone sculptures in Japan, these Buddha images are considered to represent the most distinguished technical achievement, and have been designated as both a National Special Historic Site and a National Important Cultural Property.

An excavation of the cave in 1965 discovered relics from the Jōmon and Yayoi eras to the Kamakura era; they are exhibited in the Treasure Hall. There is also a copper bell in the belfry which is designated by the Prefecture, and a copper lantern in front of the main temple which is designated by the City, as well as many other precious cultural properties.

大谷磨崖仏（10体）

昭和29年3月20日　特別史跡指定
昭和36年6月30日　重要文化財指定

大谷磨崖仏は、壁面に像を荒彫りし、その上に粘土を塗って形を整え、彩色をして仕上げたものである。

江戸時代の火災により、粘土がはがれ落ちて石の部分が露出し、今日にいたっている。

Ōya Magaibutsu (Ten Ōya Rock-Carved Buddhas)

These figures were first carved roughly into the wall surface, then clay was used to smooth and finish; finally color was applied. Due to fire damage during the Edo era, some clay has fallen off, leaving parts of the rock exposed. The Oya Magaibutsu were designated as a National Special Historic Site on March 20, 1954, and as a National Important Cultural Property on June 30, 1961.

石造千手観音菩薩立像（大谷観音）

堂の中に入ると、正面の大岩壁に、大谷寺の本尊である千手観音（大谷観音）が、高浮彫にされている。

千手観音は、千手千眼観自在菩薩といわれ、その手をもち、それぞれの手に眼をもって衆生を救済するのが本願とされている。

豊かな頬・小手に張った肩・広く厚い胸、そして合掌して視線を永遠の彼方に投げてあった姿は、雄渾さと静寂さをかもし出している。

この雄渾さと静寂さが、天平時代から平安初期における仏像の特色である。

光背は宝珠形のもので、壁面に放射状に造形され、脇手の巧妙をもって飾っている。

この菩薩像は、弘法大師一夜の作と伝えられている。

平安時代初期の作　　像高　389センチ

Senju Kannon Bosatsu (Ōya Kannon)

Upon entering the temple hall, Ōya Temple's principal image appears in high relief on the great stone wall opposite the entrance.

Senju Kannon, called Senju Sengen Kanjizai Bosatsu, has one thousand hands, each hand holding an eye, representing the desire to save mankind.

This standing figure, with full cheeks, level shoulders, broad muscular chest, hands clasped in prayer and eyes gazing into the eternal beyond, gives an impression of both power and stillness. This power and stillness is a characteristic of Buddha images of the 8th and 9th centuries.

The halo, jewel-like, is radially carved into the wall surface, surrounding both sides of the figure. It is said that this bosatsu was carved by Saint Kōbō in one night. A work of the early Heian era (794-1185), it stands 389 cm. high.

石造伝釈迦三尊像

中尊は釈迦如来と伝えられ、袖衣の一部や唇には彩色の名が残っており相貌端正、雄渾、堂々たる体容である。

左脇侍は観音菩薩、右脇侍は地蔵菩薩と推定されている。

平安時代末期の作　　像高　354センチ

Shaka Sanzon (Three Buddhas of Shaka)

The central image, said to be Shaka Nyorai, is an imposing figure with noble features and a broad chest. Vermilion color remains in part of the clothing and the lips. The left figure is believed to be Kannon Bosatsu, and the right one Jizō Bosatsu. A work of the late Heian era (794-1185), the carvings are 354 cm. high.

石造伝薬師三尊像

中尊は薬師如来、左、右脇侍は菩薩と伝えられているが、尊像が著しく傷ませることが出来ない。

全体に丸味のある、腹部のふくれた容容には、ありうと古様が認められる。　平安時代初期の作　　像高　115センチ

Yakushi Sanzon (Three Buddhas of Yakushi)

The central image is said to be Yakushi Nyorai, and the left and right ones bosatsu, but severe abrasion makes this impossible to decide.

These images, with swollen bellies and overall rounded-ness, are noted for their impression of naivete and antiquity. This is an early Heian (794-1185) work of 115 cm. in height.

石造伝阿弥陀三尊像

中尊は阿弥陀如来といわれ、左には菩薩形、右には比丘尼形の脇侍が立る表面には、粘土が残っている。

鎌倉時代の作　　像高　266センチ

Amida Sanzon (Three Buddhas of Amida)

The central image is said to be Amida Nyorai, the left image is a bosatsu, and the right one is a priestess. Clay dwelling is still visible on the surface of this sculpture. A work of the Kamakura era (1185-1333), it is 266 cm. high.

銅鐘

昭和63年4月2日
県指定有形文化財

この鐘は、大谷寺中興第4世応賢が願主となり、元禄8年（1695）に宇都宮の鋳物師である戸定吉郎兵衛、後藤定国に鋳造させたものである。

小形ではあるが、端正な形に金属の見られる鐘である。

総高　118センチ　口径　60センチ

Copper Bell

This copper bell was cast by the Tomoe family of Utsunomiya in 1695 during the Oya Temple restoration under Ōsu, the 4th head priest, as a gesture of happiness for the people. Though of small size, in the bell's handsome form can be seen its solidity. It is 118 cm. high overall, with an aperture of 60 cm. It was designated as a Prefectural Cultural Property on April 2, 1963.

銅灯籠

昭和63年3月22日
市指定有形文化財

この灯籠の制作は、宇津宮氏（1716）に門内都総黒村の高橋まるを当代吉郎が寄進したものであり、中興寺の開祖である戸定吉郎兵衛家系の作品である。

多くの歴史を秘め、市指定の文化財価値のある灯籠である。

総高　264センチ

Copper Lantern

This copper lantern was presented in 1716 by a descendant of Nomura family in Kanuma city. It was cast by Mr. Tomoe of Utsunomiya and is 264 cm. high. This lantern gives an impression of solidity, with its work of high quality. It was designated as a Municipal Cultural Property on March 22, 1988.

栃木県・宇都宮市教育委員会

これは仁王門/背後に岩肌がそそり立つ

ここから先は有料

開基は弘法大師と云い、本尊の千手観音（大谷観音）もその作と伝わるが、実際はアフガニスタンの僧侶が彫刻した、日本のシルクロードらしい

これは観音堂/江戸時代初期に建てられた本堂

右手から見たところ/正面のえぐられた岸壁の下に、岩窟状に摩崖仏が彫られている

アップで見たところ/観音堂へ入り、左手の側廊沿いに摩崖仏を見て歩く仕掛けとなっている video

唐破風下には様々な神額（扁額）などが飾られている

「特別史跡　重要文化財　大谷摩崖仏」と記された標柱が立つ/残念ながら、堂内は撮影禁止！/境内の他の岩壁には五輪塔なども彫られている

これは受付の掲示板にあった写真/右手が本尊の千手観音像/左手は平和観音

こちらは隣にある宝物館

この地には、大谷寺岩陰遺跡が所在し、縄文時代の人骨などが発掘されたらしい

発掘全景

発掘状況

①大谷寺岩陰遺跡の発掘

石仏の彫刻されている洞穴は全体が
石器時代からの遺跡になっている。
発掘の結果、一番下の土層から
日本列島最古の土器をはじめ、これに
つづく古い土器群が沢山発見された。
約一万年前の縄文土器である。

②土器と一緒に、当時の人達が
食べた動物の骨や貝、様々
の石骨の道具が発掘され、
私達の祖先の生活が、かなり
はっきり解かるようになった。

③発掘
発見
て葬
のもの
今の

屈葬人骨

一括人骨

達が
様々
れ、
なり
た。

③発掘の途中で、人骨がいくつか発見された。一つは手足を屈げて葬った男性の骨で、縄文最古のものである。歯のかみ合せが今の私達と違っている。

④縄文時代の平均寿命は、30才くらいであった。病気やけがをしても休養をとれず、活動を続けた。
食料は、植物性の木の実等が主食で、動物性のイノシシ、シカ等はまれであった。

⑤大谷

草創期
早期
前期
中期 後期 晩期 弥生式

⑥縄文式
表わして
よって、
大谷寺
初めて
入ったは

⑤大谷寺岩陰遺跡の古さ（○印は大谷寺出土のもの）

草創期	細隆起線文	大谷寺I式	約10,000年前
	爪形文	大谷寺I式	
	押圧縄文	大谷寺II・III式	
	井草式	○	
早期	夏島式		約9,000年前
	稲荷台式		
	花輪台式		
	三戸式		
	田戸下層式	○	
	田戸上層式		
	子母口式		
	茅山式	○	約7,000年前
前期	花積下層式	○	約6,000年前
	関山式	○	
	黒浜式	○	
	諸磯式	○	
中期		○	約5,000年前
後期		○	約4,000年前
晩期		○	約3,000年前
弥生式		○	約2,000年前

⑥縄文式、弥生式の年代は、土器の型式で、その古さを表わしている。これはまた放射性炭素C14の測定によって、今から何年前と大体判定できる。
大谷寺遺跡の深い部分は、日本列島で土器が初めて作られた頃の非常に古い時代で、後氷期に入ったばかりの時代と思われる。

これが縄文時代の人骨

縄文最古の人骨
約11,000年前
縄文最古の人骨(約11,000年前) 本物
出 土 地 大谷観音堂下の地層より
出土年月 昭和40年4月
横臥屈葬 (母胎にいるような形の埋葬法)
身長154cm 年齢20才前後
鼻の高い、下あごの発達した男性
年代測定法(平成10年5月)
前歯の根を採取し、「放射性炭素」と「フッ素」の2種類の量から、11,000年前と判明した。
ご自由におもちください

アップで見たところ

さて、宝物館の傍には池と橋があり、右手には白へびが見える

弁天堂と白へびの由来
赤いお堂は弁天堂で、中に弁財天が祀られています。
弁財天は七福神の中の紅一点で、開運・財運の神様です。
そのとなりの白へびには、伝説が残されています。
昔、この池に毒蛇が住んでおり、毒をまき人々を困らせていました。
時に大同、弘仁の頃、弘法大師がこの話を聞き、秘法をもって退治したといいます。その後、毒蛇は心を入れ替えて白へびとなり、弁財天にお仕えしています。
参拝後に、白へびの頭を軽くさすると、ご利益があると云われています。
大谷寺

アップで見たところ

この橋を渡ると弁天堂

video

その先に進んでみる

名勝（国指定文化財）御止山（おとめやま）

この山は、自然の奇岩群と、赤松の織り成す風光明媚な景勝が「陸の松島」と賞賛され、国の名勝に指定されました。栃木県では日光の華厳の滝に続いて、2つ目の指定です。

名前の由来は江戸時代、日光輪王寺の宮様の御用山で、秋になりますと、松茸狩をされました。

そのため、一般の人々が立ち入ることを禁止され、「おとめやま」と呼ばれてきました。

また、大正天皇は度々参詣され、山頂にはお手植えの松がありましたが、今は記念碑が建てられています。

禁煙

ここが御止山への登山道入口のようだ

その脇にはこんな石造物があった

別の角度から

さて、大谷寺の向かいにある大谷公園へ進んでみよう/ここに平和観音がある video

大谷公園

市街地の西約７ｋｍにある宇都宮県立自然公園内に位置します。元々は特産の大谷石を産出する採石場でしたが、世界平和を祈念した平和観音が刻まれた後に、昭和３１年に開園しました。周囲の起伏に富んだ地形と松や広葉樹の自然林と相まって、独特の景観をかもし出している異色の公園として、多くの観光客に親しまれています。

公園中央にはカエルの後ろ姿に見える「親子がえる」があり、参道の岩壁には、天狗が投げたという伝説が残る「天狗の投石」や巨大な石臼のような「スルス岩」などの奇岩があります。また平和観音の左側の階段から頂上に登る展望所では、平和観音の目線で名勝の指定を受けた御止山（みとやま）や大谷の景観などの眺望を楽しむことができます。

ここ大谷公園は、石像、採石場跡、奇岩などがあり、大谷全体の景観をコンパクトにまとめた公園です。

これが「平和観音」

video

「大岩壁」

「慰霊塔」

「スルス岩」

「天狗の投石」

これが「親子がえる」

その昔ある聖僧が仏教を広げるため各地を歩いておりますと、このあたりに蜂の大群が住みつき、住民を苦しめているとの話を耳にされました。聖僧は住民を助けようと当地で三七・二十一日の苦行を重ねて観音様を作りあげました。

そのとき、蜂の大群がこの村に攻めてきました。するとどこからともなく「親子がえる」が現われ岩肌にしがみつき蜂の大群と戦い身をもって住民を守ったといわれています。

それ以来、住民は蛙に感謝し、今も地守神様として子孫にいい伝えております。

宇都宮観光コンベンション協会

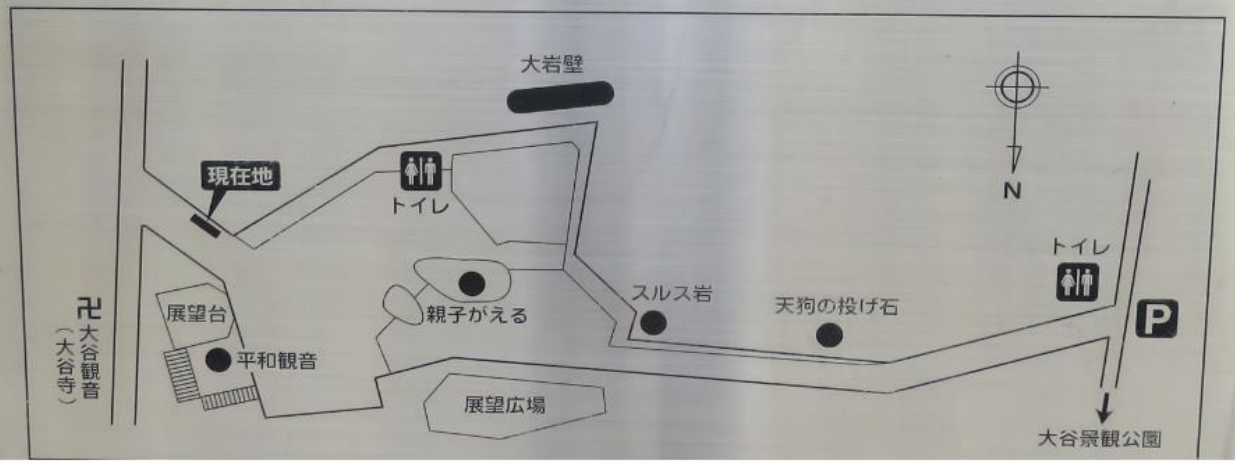
これは大谷公園から大谷観音方向を見たところ

大谷公園

市街地の西約7kmにある宇都宮県立自然公園内に位置します。元々は特産の大谷石を産出する採石場でしたが、世界平和を祈念した平和観音が刻まれた後に、昭和31年に開園しました。周囲の起伏に富んだ地形と松や広葉樹の自然林と相まって、独特の景観をかもし出している異色の公園として、多くの観光客に親しまれています。

公園中央には『親子がえる』があり、参道の岩壁には、天狗が投げたという伝説が残る『天狗の投げ石』や巨大な磨臼（すりうす）のような『スルス岩』などの奇岩があります。また、平和観音の左側の階段から頂上に登る展望所では、国の名勝指定を受けた御止山（おとめやま）や大谷の景観などの眺望を楽しむことができます。

ここ大谷公園は、石像、採石場跡、奇岩などがあり、大谷全体の景観をコンパクトにまとめた公園です。



平和観音

大谷寺の南側に高くそびえる平和観音は、身丈26.93メートル(88尺8寸8分)の高さで、第二次世界大戦による戦没者の霊を弔(とむら)い、世界平和を祈念するために、大谷観音の御前立(おまえだて)として彫刻されたものです。

戦後間もない昭和23年9月より、当時の大谷観光協会と地元の人々の熱心な後援のもとに、大谷石の採石場であった壁面を利用し、南側の岩肌に観音像を刻みました。東京芸術大学教授・飛田朝次郎氏が彫刻を手がけ、その指導のもと、大谷町の大工・上野浪造氏らが制作にあたりました。6年の歳月を費やした結果、昭和29年12月に完成しました。昭和31年には、日光輪王寺門跡菅原大僧正により開眼供養が行われ、それ以降大谷の顔としてそびえ立っています。

制作中の平和観音

開園当時の平和観音

奇岩群（スルス岩・天狗の投げ石）

大谷の人々は、大谷地区に点在する奇怪（きかい）な形をした岩に名前を付けて呼んでいました。大谷公園の中には、岩の中央に横に亀裂が入り磨臼（すりうす）のような形をした「スルス岩」と、伝説では大谷の南に位置する戸室山に住んでいた天狗が、大谷向って投げた巨石が、崖の上でバランスを保ち止まっている「天狗の投げ石」があります。このほかにも大谷には、「鶴岩」、「亀岩」、「兜岩（かぶといわ）」、「ダルマ岩」などの奇岩群（きがんぐん）が点在しています。これらの奇岩は古くから観光名所として紀行文や絵葉書などに登場しています。

スルス岩

天狗の投げ石

大谷石の採石場跡

大谷町を中心に産出される大谷石は、東西約8km、南北約37km、に分布しています。大谷石は今から約2000万年前の海底火山の噴火により噴出した火山灰が海底に堆積してつくられたもので、地質学上の名称は「凝灰岩（ぎょうかいがん）」と呼ばれています。

大谷石の採石は江戸時代に農家の副業として始まり、明治時代に入り産業として発達しました。当初は露天掘（ろてんぼ）りと呼ばれる地上に現われている岩を採石する手法を用いていましたが、現在の採石場所は地下数十メートルから百メートル以上もある坑内に移っています。採掘された地下空洞の広さは、全体で東京ドーム12個分に相当するといわれています。

ここ大谷公園では、昭和初期まで露天掘りや天上部だけを残す垣根掘（かきねぼ）りと呼ばれる方法により採石が行われていました。採石は岩の上部から一本ずつ手作業により下に向って行われ、大谷公園から大谷寺に向う通路の壁面や東側の壁面には、層のようになっている採石跡を見ることが出来ます。また、市営駐車場から平和観音を結ぶ通路には、石材輸送用の軌道が敷設されていました。

採石をしていたころの
大谷公園

宇都宮市の郊外に広がる大谷地区は、田園の中に特異な形状の山や奇岩が連なり、独特の景観を作り出している/これら大谷の山々は、軟らかくて加工がしやすい軽石凝灰岩により形成されており、それから切り出した石材は大谷石と呼ばれ、古くより建材として利用されてきた

参考ホームページ

http://www.ooyaji.jp/

https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/201196

http://kankodori.net/japaneseculture/site/011/index.html

https://ameblo.jp/kamakurakannon/entry-12575246907.html

http://www.coara.or.jp/~shuya/kenkyu/magaibutu/magaibutu-tobira.htm

E4
E81
293
119
119
293
4
4
121
E4
408
東武日光線
日光線
秋田新幹線
鬼怒川
鹿沼市
宇都宮市
山形新幹線